

9. 北洋漁場調査への提案

宇田道隆（東京水産大学）

スピーカーにご指名いただいたが、ちょうどマニラに会議で出張のため、下記の意見を書いて提出いたし、参加に代えさせて頂きたい。

- 1) 北洋漁場では従来秋、冬、春の海況および生物状況のデータがはなはだ貧弱で、予察、予報に苦勞する現状であるが、水産庁の大型調査船が建造されたならば是非出動して実態を明かにし、予報に結びつける研究を完成してほしいものである。これに加えて次の提案をしたい。
 - (1) 北洋を秋冬春往復する底魚漁業および捕鯨関係船に観測施設を援助し、水温その他のデータを収集する。BT の記録だけでも現在やろうと思えば相当の資料がベーリング海、アリューシャン、オホーツク海、千島方面から入手できると思われる。又運搬船などからも広く資料を集める努力をすること。
 - (2) 親潮流域および、親潮前線において漂流ブイ (Drift buoy) を流して自動観測値発信によるテレメータリングを関係者の協力により完成し、暴風障害の多い北洋の困難な観測の壁を破つて海況の実態を明らかにすること。(米国ではすでに開始している。)
 - (3) 北洋に Key area を数ヶ所設定し、精密調査をすること。毎年出動する北大の練習船もこれの観測に協力すること。
- 2) これまでにあるデータ (Existing data) を北洋水域で日本はいうにおよばず、米、加、ソ連のも集めて解析をすすめて、予察の基礎方式を確定すること。これに業界の資料も水温透明度その他できるだけ提供してもらおうこと。サケマス、クジラ、底魚など北洋の環境資料を一括してしらべ、今後の改善をもはかるべきこと。
- 3) 委員会をつくり、試行的に予報を出し、その成果をみて足りないところを補いつつ改良するように努めることは如何？ 気象の方のデータも必要、結氷、流水、波浪等氷のデータも必要で、(着氷警報、波浪予報、氷況予報もほしい)、気象庁の長期予報、海洋気象等水路部関係も参加が必要であろう。海難防止(着氷、暴風等)の関係も関連があるので一しよにやるようにできるであろう。なお、諸外国との協同ということも将来考え得られる。
- 4) カナダではサケマスについて海洋生残率(死亡率)を重視し、海洋環境の好い時代、悪い時代を紅ザケ、ピンク、白等についてのべている。資源量と海洋環境の関係を明確にするように調査の一つの重点をおかれない。
- 5) 魚群の漁期外の所在密度を魚探像およびサンプリングによつて知り、さらに浮上期の集群と漁場熟成条件、漁場形成を環境調査を通じて判定、予報することは協力により実現容易であると思われる。